

## パリ通信 12月号

「没後500年経った今日もなお、レオナルド・ダ・ヴィンチの生涯と作品は世界中の人を魅了する。フランソワ1世の時から「モナリザを持つ者がフランスを治める」と云わるように、不思議な力を持つ作品がこの世には存在するように思う」古賀さんからの寄稿です是非、お読みください。興味深い文章です。

### 人間通

今年は私にとって大きな節目の年でした。2月に恩師滝沢陽一先生が召天され、6月姉も召されました。その間に「わたしの幸せあなたの幸せ」を5月に改訂しましたが、私の心は激しく動揺しました。なぜなら、この本にはなくてはならない、共に私を育ててくださった二人であったからです。改訂版が出版されようとしているとき姉は危篤状態で、この本を見守ってくれていたかも知れません。生老病死をより自分のこととして身近に感じる年となりました。

新しい風も吹き始めました。

#### (1)喜怒哀楽さんでの演習

第一声をかけてくださったのは岡山市の「喜怒哀楽」（寿司店舗の屋号）の難波さん、インターネットで見つけて電話をしてくださいました。難波大将は16名の社員さんに「わたしの幸せあなたの幸せ」を1年がかりで社員研修テキストにして伝えてくださっています。講師は大将その人。既に3回は進んでいる。その第4回目を担当させて頂き12月1日（日曜日）22時から2時間社員さんと共に楽しく語り合い学びを深めました。

深夜に渡る研修をする大将、受ける社員さんの信頼関係を実感できました。

人間通でなくてはできない企画です。

私は感謝しつつ、「喜怒哀楽」の理念を私の解釈でTAに結びつけて話をさせて頂きました、それは好評で深夜に及びましたが、皆さん生き生きと反応してくださり、疲れが吹っ飛びました。最後は私の得意とするストロークの実習で時間は翌日になっていました。

MacのKey-note(一般にはパワーポイント)で編集しプロジェクターを用いた初めての講義を演習させて頂きました。社員さんから沢山のストロークを頂き、難波さんの親切な指導を頂き自信がつき、更に操作のレベルを上げて、本番の高岡整志会病院第34回院内研修発表会での特別講演に備えることができました

## (2)格調高い研修に備えて

この伝統ある研修会の特別講演は医学博士級の大学教授、精神科の有名医師、実業界で著名な人が招かれてレベルの高い講演で、一年を締めくくるに相応しい時が共有されています。私のような無名無冠のものが立てる場ではありません。

院内研修会は14時から始まり、19の演題で研究発表と質疑応答があり、18時迄続きます。特別講演はその後30分です。

毎回素晴らしい講演で私がこの光栄ある場に立たせてくださるとのお話が9月17日にありました。嬉々としてお受けさせて頂きました。その時はまだ準備に100日あると余裕感を持っていました。

9月24日、事務長さんから「演題」を聞かれ、戸惑いはその時から始まりました。時間は30分「わたしの幸せあなたの幸せ」をどう要約して話せるか？今までにない難関を突破するにはどうするか。会場の期待と自分の力の落差の大きさに震えました。

プロジェクターは必須と痛感し先ずその練習から始め、並行して、伝えたい柱をどこに置くべきか？30分で伝えられる組み合わせ、11月末になっても自信が付きませんでした。

12月1日の「喜怒哀楽」さんでの実習で感触を掴みましたが、時間は3分の1に短縮せねばならない。あと2週間となり体調も整えながら、柱を決め練習をするも、決められず高岡に着いたのが前日13日の午後4時、補助レジメの追加を印刷して頂き、打ち合わせをして、チェックイン。最終の編集にかかるが、焦りが先立ち、気がついたら14日午前3時、これは寝る必要があると気持ちを切り替え6時起床し、11時迄声の調子と速さの訓練、速く話すことは年と共に落ちている自覚は持っていましたが、いざとなると忘れて若い時が基準になる。

## (3)当日の11時会場での打ち合わせ

会場準備には私のために特別な配慮がなされ、ピンマイク、Macに適合したプロジェクターの用意と万端を整えて頂き、その配慮に勇気が湧き「出来る」と確信しました。

準備を終えて3時30分まで調整訓練するも速さ勝負となり、もうその場の雰囲気任せ他なしとして準備を打ち切り、14時開始の院内研修発表会に出席、最前列での聴講となり、

緊張感は高まるばかり、60分の途中休憩をお願いし、再び16時50分に席に戻り、6部門の発表を上の方で聞きながら、出番に備えました。

#### (4)いよいよ本番開始

いつものスピードで聴衆の反応を感じながら始め、時間が気になり時計をみたときには15分経過、練習では10分、その誤差5分、どこをカットするか焦り始めました。講義をしながら手元のMacを操作して、画面を飛ばす。意識する時間はなく、止まった所からチェンジする綱渡り。止まった所が、一番伝えたかったところ、しかも最も得意とする坂村真民詩「二度とない人生だから」の画面でした。

無意識必然性とでもいえる、奇跡的なこと。準備はしていたものの、この画面に導いてくれた力に感謝しました。ここで落ち着きを取り戻し、自分のスピードの範囲内で、「気づき」の広さと深さを学ぶ最適な詩によって立ち直おり、最終画面は当日の朝、浮かんだ言葉メッセージで締めくくられました。少し超過して33分で無事終了。内心ヤッターとの達成感と又ぎりぎり助けられた感謝でした。

#### (5)予定していたプログラムは3場面、各10分で構成していました。

①ストロークの大切さをディスカウントとの対比で浮き彫りにする。

用いた資料は「人間通」これほどこのテーマに相応しい文章はないと思います。

「人間は最終的にとことんのところ何を欲しているのか。それは世に理解されることであり世に認められることである。理解され認められれば、その心ゆたかな自覚を梃（てこ）として、誰もが勇躍（ゆうやく）して励む。それによって社会の活力が増進し、誰もがその恵にあずかる。この場合、世間とは具体的に自分に指示を与える人であり働きをともにする同僚である。この人たちから黙殺または軽蔑されるのは死ぬより辛い。逆に自分が周囲から認められているという手応えを得たときの喜びは何事にも替え難い。他人（ひと）の気持ちを的確に理解できる人を人間通という。人間通を身近に見出（みいだ）せることは、幸福の最たるものであろう。」

「人間は息をひきとるまで生涯をかけて、私を認めてくれ、私を認めてくれと、声なき声で叫びつづける可憐な生き物なのだと思う。」

（文芸評論家（1929～2011）谷沢永一著「人間通」新潮選書 1995年刊p18-より引用）

私は院長先生ほどの「人間通」を知りません。職員の方は身近に人間通を見いだせ、幸せですと断言して伝えました。

## ②「コミュニケーションの決定権は受け取る側にある」

漫画を用いるいつもの方式ですが、今回からは、この法則の発信者がアリストテレスであることを確信をもって伝えられたことが大きな評価になったと思います。紀元前4世紀の言葉が13世紀に大神学者トマス・アクイナスによって掘り起こされたことを突き止められたことを発表して学者先生から評価されたことは、20余年原点を追求してきた私にとって、大いなる達成感となりました。

## ③幼児決断の成り立ちと新しい脚本への道筋を示すこと

基本的信頼が生後8ヶ月間に養われることは丁寧に伝えられ、現代の養育環境について示唆できと感じます。しかし、「人生の基本的構え」が十分に話せなかったこと、幼児決断の説明のために準備した「行雄君」を用いることができなかったことを残念に思い反省しています。

## (6)エンディングは独創的に！

エンディングに夜明けに浮かんだ言葉をお伝えしました

ひたすらに良き師を求め

ひたすらに技を磨き

どん欲に食べ どん欲に学び

自分の世界を広げ 広い視野をもち

時が来たらば 育ち育てて ストロークの輪を広げよう

ひたすらに場を清めよう

ひたすらに居場所を清めよう

満ちあふれるストローク

共に学び 共に語ろう 希望を

希望に目覚め 使命に励み 感謝に眠る

苦難を突き抜け歓喜に至る

素晴らしき日々を

## (7)成果と反省

成果は自分の現在の力の程度が確認できたこと。

Key-note に積極的に取り組んだこと。操作に自信が持てたこと

私のTA全体を映像化しようと思欲が湧いてきたこと

反省はストロークは積極的に伝えなければならないこと。

## (8)嬉しかったこと

格調の高いことで評判の高岡整志会病院特別講演にお招きを受けたこと。これほど私にとって光栄なことはありません。

無名無冠の私をこの講演会に招いてくださった院長先生の勇気に感謝の言葉がありません  
心温まる感謝状を頂き高い評価をしてくださったこと。これからの老いの人生に大いなる力を頂き感謝です。書き尽くせない感謝と感動で涙が溢れる嬉しい時でした。